

墳丘の形から当時の政治的な力関係を推察してみよう。

I -12-①

4世紀には前方後方墳を採用する豪族がかなりいたのが、4世紀後半以降には逆に前方後円墳を採用する豪族が極端に増えることが、これまでの研究によりわかっています。これは、現在の奈良や大阪付近を中心とする大和朝廷の勢力拡大が原因と言われています。

5世紀には、それぞれの地域で一番大きい古墳、それも前方後円墳が築(さ)かかれていることから、前方後円墳は当時において優勢(ゆうせい)だった大和朝廷のシンボルだったのでしょう。

大和朝廷とは：

4世紀ごろ、大和(現在の奈良県)を中心とする地域には、特に大きな前方後円墳がつくられており、この地域に強力な国ができていたと考えられています。この国を大和国家(やまとこかく)、その政府を大和朝廷とよんでいます。

I-12-①

I-12-(4)

地名	面積	形状	位置	周囲地帯	地質	特徴
大曾 御前山古墳	方墳 全長：14.4m 高さ：1.7m	全長：14.4m 高さ：1.7m	大曾御前山古墳群のうち最も高い	大曾御前山古墳群のうち最も高い	新第三紀砂岩層 風化砂岩層	新第三紀砂岩層 風化砂岩層
大曾 御前山古墳	方墳 全長：14.2m 高さ：1.7m	全長：14.2m 高さ：1.7m	大曾御前山古墳群のうち最も低い	大曾御前山古墳群のうち最も低い	新第三紀砂岩層 風化砂岩層	新第三紀砂岩層 風化砂岩層
大曾 御前山古墳	方墳（？） 不明	不明	大曾御前山古墳群のうち最も低い	大曾御前山古墳群のうち最も低い	新第三紀砂岩層 風化砂岩層	新第三紀砂岩層 風化砂岩層
御前山古墳群 (東側)	椭円不規 方墳の複数	椭円不規 方墳の複数	大曾御前山古墳群のうち最も低い	大曾御前山古墳群のうち最も低い	新第三紀砂岩層 風化砂岩層	新第三紀砂岩層 風化砂岩層
風越山古墳	方墳 全長：6.0m 高さ：0.6m	方墳 全長：6.0m 高さ：0.6m	大曾御前山古墳群のうち最も低い	大曾御前山古墳群のうち最も低い	新第三紀砂岩層 風化砂岩層	新第三紀砂岩層 風化砂岩層
中曾根一ノ塚	方墳 全長：2.05m 高さ：0.2m	方墳 全長：2.05m 高さ：0.2m	大曾御前山古墳群のうち最も低い	大曾御前山古墳群のうち最も低い	新第三紀砂岩層 風化砂岩層	新第三紀砂岩層 風化砂岩層
中曾根古墳群	方墳 全長：9.0m 高さ：1.0m	方墳 全長：9.0m 高さ：1.0m	大曾御前山古墳群のうち最も低い	大曾御前山古墳群のうち最も低い	新第三紀砂岩層 風化砂岩層	新第三紀砂岩層 風化砂岩層
名張大塚山古墳	方墳 全長：1.0m 高さ：0.1m	方墳 全長：1.0m 高さ：0.1m	大曾御前山古墳群のうち最も低い	大曾御前山古墳群のうち最も低い	新第三紀砂岩層 風化砂岩層	新第三紀砂岩層 風化砂岩層

J-12-②